

第2回 大阪フォーリン・ビジネス・ネットワーク・クラブ 概要

- 1 日時 平成21年9月2日(水) 午前10時から12時
- 2 場所 大阪港クルーズ(夢洲~鶴浜~平林)
(ユニバーサルシティポートにて乗下船)
- 3 出席者 関西の外資企業のトップ、在阪の海外領事館・商工会議所のメンバー 30人
大阪市長
- 4 開催内容
 - ・挨拶 (大阪市長 平松邦夫)
 - ・大阪港説明「本日のクルーズ内容及び大阪臨海部の現在について」
(大阪市港湾局コスモスクエア地区開発担当課長兼政策企画室企業誘致担当課長 野瀬和宏)



【クルーズルート】

- ・ 大阪湾ベイエリアは、鉄鋼、金属、化学、造船等々の工場が立ち並び、日本有数の工場地域であり、2004年（平成16年）に、工場制限法が撤廃されて以降、特に近年は大型先端工場の立地が相次ぎ、“パネルベイ”、“バッテリーベイ”、“グリーンベイ”と呼ばれるくらいに工場立地・集積が進んでいる。
- ・ クルーズルートとしては、天保山から、港大橋、この8月で1周年となったIKEAの店舗、中山鉄鋼所、旭硝子のPDP（プラズマディスプレイパネル）ガラス基盤工場・パナソニックのリチウムイオン電池工場、フェリーターミナル、WTCを海上から眺め、8月に開通した夢咲トンネル（夢州～咲州）の上を通過し、今後産業・物流の集積が期待される夢洲を視察した。

【旭硝子・パナソニック】

- ・ 関西電力の発電所跡地、敷地規模25haを、先端産業を誘致するエリアとして、産業集積促進地域として指定し、大阪府とともに企業誘致活動を進めてきた。
- ・ 2007年5月、旭硝子のPDPガラス基盤工場が稼働を開始し、パナソニック等へ製品を供給している。
- ・ 市長をトップに戦略的に誘致活動を進め成功した、パナソニック（株）エナジー社の住之江工場は、全体計画では、投資見込額約1000億円、リチウムイオン電池を年間6億個生産予定である。
- ・ 今年10月に第1期の源泉生産がスタートの予定で、来年3月には竣工式を挙げ、本格稼働になる予定である。
- ・ 工場建設にあたって通常、事業者が市の各担当窓口と個別に進める手続きについて、窓口の一元化を図り、迅速な対応をした。

【大阪港のポテンシャル】

- ・ この秋以降に一斉に稼働しはじめる、堺臨海部のシャープの液晶パネル・太陽電池工場が大和川の対岸に、尼崎パナソニックのPDP工場が淀川をはさんで、それぞれ立地している。車で30分圏内に、投資額1兆円を超える巨大工場群が集積している状況は、大阪のポテンシャルの証といえる。

【夢洲・トンネル】

- ・ 夢洲は、大きく分けて、目的別・整備時期別に、2つのエリアに区分される。
- ・ ひとつは、島の東側の約140haで先行開発地区として、産業・物流拠点の形成を目指すエリアであり、もうひとつは、西側の約250haの将来開発エリアで、こちらの開発は20年以降先である。
- ・ 2012年、あと2年半ほどで土地提供できる先行開発地区に、世界標準の高規格な夢洲コンテナ埠頭（約500億円投資）があり、これと連携させた形で、高付加価値なものづくりの産業が集積してもらえるよう、働きかけているところである。
- ・ 夢洲の強みは、前面のコンテナ埠頭をはじめとする国際物流・交通インフラや背後圏ヒンターランドの都市経済活動に直結至近というロケーションに加え、大阪市が造成した巨大用地である点である。
- ・ また、この海底には、今年8月に夢咲トンネルが延長2キロにわたり整備され、通行料無料で開通している。